

「課題研究」簡易ルーブリック(プロセス評価)

この評価基準は、課題研究を行っている途中で、テーマ設定、研究手法、取組状況、グループの各観点から評価を行うことを想定しているものです。
この評価基準に該当しない評価観点については、評価をしなくても構いません。

領域	評価観点	評価尺度			コメント
		5(S)~4(A)	3(B)	2(C)~1(D)	
		求めているレベルを越えて達成している。	求めているレベルをおおむね達成している。	求めているレベルを達成するには課題がある。	
テーマ設定	先行研究	研究テーマに関連する先行研究の文献や資料を丹念に調べている。	研究テーマに必要な先行研究の初歩的な文献や資料を調べている。	研究テーマに必要な先行研究を多少調べたものの、これまで研究されてきた内容を十分把握できていない。	
	課題意識と発展性	学術的・社会的な課題意識を反映したテーマで研究に取り組もうとしている。	学術的・社会的な課題意識はあるが、テーマとしては目新しくない。	学術的・社会的な課題意識から考えたというよりも、表面的な発想からテーマ設定を行っている。	
研究手法	計画・準備と進捗状況	実施上の日程計画や方法を進んで担当教員に相談・報告し、研究を主体的に進めている。	実施上の日程計画や方法に遅れはあってもおおむね計画どおりに進めている。	見通しを持たないままその場の成り行きで行っているため、計画どおりに進めることができていない。	
	研究方法の妥当性	研究目的を達成するのに現実性のある研究方法が具体的に考えられている。	研究目的に照らして研究方法を検討しているが、実行には再考の余地がある。	研究手法は考えているが、研究目的を達成するには不十分である。	
取組状況	好奇心・興味関心・探究心	高い課題意識で研究を進め、研究テーマの探求により発展性がみられる取組となっている。	研究を進めるにつれて興味を抱く事柄に出会えたため、関心をもって研究テーマに取り組んでいる。	研究を進める中であまり興味を抱く事柄に出会えなかったため、進んで研究テーマを深めるところまでいっていない。	
	創意工夫・オリジナリティ	先行研究を踏まえながら、調べた資料やデータを自分なりに解釈しようとし、独自のアイデアを導き出そうとしている。	調べた資料やデータを自分なりに解釈し、自分の言葉で説明しているが、解釈が先行研究に引きずられている面もある。	調べた資料やデータの解釈が不十分であったり、先行研究の丸写しであったりする。	
グループ	役割分担と協力	自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループ研究に貢献している。	自分の役割はおおむね果たしているが、他のメンバーへの貢献は十分に果たせていない。	自分の役割を果たせず、グループの他のメンバーに頼りきりである。	